

万成石の健太が行く No. 4



(有)武田石材 (岡山市)

高橋健太

ており、また墓石の加工もしていきますので、お墓の知識を深めることは、これから石屋を続けていくうえで、絶対に必要なことでした。

今年五月のことですが、石文化研究所長の小島宏允先生による「お墓ってなに」と題した講演会に行ってきました。(有)三秋笠岡市の河田卓也社長が、これからお墓を建てる一般の方々のために開催された講演会ですが、河田社長から、石屋でも、とてもためになる話と聞いたので、僕も参加させていただきます。

「お墓の講演会」と聞くと、何かとても堅苦しい、暗いイメージですが、小島先生の講演会は終始明るい雰囲気、時には笑い声も混じるとも面白いものでした。もちろん、内容は大いに満足いくもので、お墓の歴史やお墓の本質、またお墓参りの大切さなど様々なことを教えていただきました。



講演会のようす

の意味」についてです。それは「なぜお墓参りをするのですか？」という唐突な質問から始まりました。皆さんは、なぜお墓参りをするのでしょうか？

僕の場合は、習慣としてお盆やお彼岸行事の一環であり、ただなんとなくお墓参りをしていました。ですから、お墓参りの意味を考えたいこともありませんでした。

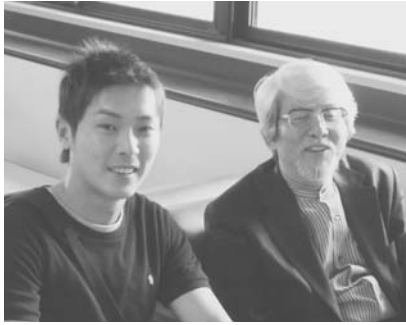
小島先生は、「ご先祖様が自分たちを幸せにしてくれるから、お墓参りをするのだ」と言われました。

そしてお墓参りは、「家族の幸せを実現するもつとも大切な行事である」とも言われました。

僕は今まで、「お墓参りや管理を怠ると『バチ』が当たる」といったマイナス的な考えを持っていましたが、「自らの幸せのためにお墓参りに行く」というプラス的な考え方は、とても素敵だと思いました。さらにこんな話もしてくださいました。

お墓参りによく行く家や仏壇がある家の子供は、圧倒的に犯罪者が少なく、社会に迷惑をかけない子供に育つそうなのです。実際に少年院や刑務所で「家に仏壇はあるか？」「お墓参りによく行っているか？」と質問すると、ほとんどの人たちが「仏壇はない」「お墓参りに行っていない」と答えるという事実があるそうです。

お墓や神仏に対する考え方は、



小島先生（右）と筆者

宗教の違いや個々様々なものがあ
ります。僕は石屋として、個人の
墓に対する価値観・考え方を大切
にし、お客様が本当に心から満足
いただけるような対応を心掛けて
いきたいと思っています。

今回の講演会で、今まで自分が
考えもしなかった「お墓」や「こ
先祖様」の意味を知ることができ
ました。このことは貴重な経験に
なっただと思っています。

僕が石屋として働き出して今日
まで、お墓の仕事はたくさんして

きましたが、なかでも特に印象に
残っている事例を紹介します。

弊社ホームページを見て、「ぜひ
万成石でお墓を建てたい」と連絡
がありました。そして連絡をくれ
た方は北海道在住であるにも関わ
らず、本物の万成石を見てみたい
と、わざわざ岡山まで丁場見学に
来られたのです。つきり年配の
方かと思っていたのですが、お会
いしてみると僕と同世代の二十代
後半の男性でした。僕はまず、「な
ぜ万成石でお墓を建てたいと思っ
たのですか？」と質問しました。

お話を伺うと、お墓は亡くなっ
たお母様のためのもので、色々な
石屋さんを巡ったり、インターネット
で調べる中で「万成石」にたど
り着き、「生前の優しくぬくもりに
あふれていた母親のイメージに合
う石はこれだ！」と思ったそうです。
実際に丁場で万成石を見た時も

「この温もりを感じさせてくれる色
合いが良い」と感激されていまし
た。そして万成石の硬度や吸水率
等を伝えるとより満足してくださ
り、万成石でお墓を建てることを
決めてくださいました。

さらに、「国内加工が希望」とい
うことから弊社で加工することに
なりました。お墓への強く熱い想
いに僕たちはとても感動し、その
想いに応えられるよう誠心誠意こ
の仕事に取り組みました。

このようなお客様との出会い、
仕事を経験することによって、「お
墓」にはお施主様それぞれの想い
が込められているのだということ
を改めて実感しました。また、こ
のような強い想いを持ったお客様
がいるかぎり、僕は「万成石」の
採掘を続けていきたいと思ってい
ます。そして、一人でも多くのお
客様に満足して頂けることを目標
に、これからも頑張っていきたい
と思っています。



石原裕次郎さんのお墓は万成石です（当社の石
ではありません）